

画論受賞報告

札幌医科大学附属病院 大橋 芳也

皆さんこんにちは。札幌医大病院の大橋です。昨年12月18日に東京で画論30th The Best Imageが開催され、光栄なことに1-160列CT部門でテクニカル賞をいただきましたので会の一部をご紹介します。今年の画論は30周年の記念の会となり2日間に渡り開催されました。CT、MRI、超音波部門合計で520件の応募数があり、そのうちCT部門が160件と多くのご施設からの応募が集まったようです。1日目は、東京丸の内ビルで開催され、Canonメディカル社の部門紹介がありました。私たちが普段耳にすることがないCT装置や血管造影装置などのデザインやイメージカラーを選定している社員の方のお話を聞くことができ、その奥深さにとても感銘を受けました。また、テレビなどでよくお見かけする慶応義塾大学医学部教授の宮田裕章先生のビデオ講演がありました。多様な社会の創造をテーマとし、データサイエンスの科学を駆使して医療業界の発展にご尽力されており素晴らしいご講演でした。

2日目は東京のコンファレンスホールにてCT、MRI、超音波部門の最終選考画

像 44 件の最終プレゼンテーションが行われました。例年、最終プレゼンテーションには医師、技師の各 1 名ずつが参集されプレゼンを行う進行となっており、臨床における有用性を審査基準として重視されていることが垣間見れました。

上位入賞画像はどれも素晴らしく非常に参考になりましたが、特に撮影だけでなく画像の見せ方を工夫することで痒いところに手が届くような症例もあり、自施設でぜひ真似してみたいテクニックも散見されました。特別ゲストとして男子卓球団でオリンピック金メダリストの水谷準選手がサプライズで生出演され、自身の海外でのエピソード談を交え、世界との違いを知ることが重要とコメントいただき、卓球に対する情熱はやはりプロ選手として流石だと感じました。特別講演は順天堂大学医学部附属順天堂医院の天野先生と大阪刀根山医療センターの奥村先生にご講演いただき、現在外科医として第一線でご活躍されている医師の先生から見る昨今の臨床画像の有用性や手術手技のこだわりを紹介いただきました。我々放射線技師が撮影、作成した画像が実際の手術にとっても役立つとして紹介されていたことが嬉しく親近感を覚えました。

今回の私の受賞は、臨床現場の先生から CT 画像の画質改善を提案して下さったことがきっかけとなり新たな撮影法を考案するに至った経緯があります。

実際に撮影した画像について臨床の先生とディスカッションすることで我々だけでは気づきにくい盲点や課題が見えてくることを実感した症例です。医師の視点を意識し日頃からコミュニケーションを図ることが実際に役に立つ画像を撮影するためのステップとして大切なことと感じました。今回このような機会に恵まれ感謝しつつ来年も画論に来れるよう日々精進したいと思います。日頃よりお世話になっておりますキャノンメディカルの皆様、またいつもご指導いただいている職場の皆様には深謝申し上げます。ありがとうございました。